

基礎を固めるクラス 偏差値のめやす 40～50程度 主な学年のめやす: 高1後半～高2

この紙のゴール: 300～450語の初見の論説文を、段落の働きを追いながら読み、要点を自分のことばで書く / 目安15分(本文+設問)。本文はこの教材のための書き下ろし(初見用)です。

[1] Two pairs of shoes are on the shelf. One costs three thousand yen. The other costs twelve thousand. They look almost the same, and you have three thousand yen. The choice seems to have been made for you.

[2] Buying the cheaper pair is often the right decision, and it is not a mistake to be lectured about. If you have three thousand yen, you have three thousand yen. Money you do not have is not an argument. A pair of shoes you can pay for today beats a better pair you cannot. Sometimes you also need the shoes for one season only, and then the cheap pair is simply the correct answer.

[3] The trouble starts when the cheap pair wears out in six months and you buy another one, and another. Four pairs at three thousand yen come to twelve thousand yen. You have now spent what the expensive pair cost, and you have nothing left to show for it.

[4] Notice that the price on the label answered a different question from the one you were asking. It told you what you pay today. It did not tell you what the shoes cost for each year that you wear them, and that second number is the one you live with. Both numbers are true. They are answers to different questions.

[5] This is not an argument for always buying the expensive thing. It only works when you know two things: that the expensive one really does last longer, and that you will keep using it. If either of those is uncertain, the cheap pair wins again.

[6] So before your next purchase, do one small calculation. Divide the price by the number of years you expect to use it. It takes ten seconds, and it answers the question you were actually asking. Do it in the shop, not afterwards.

〔語注〕 lecture=説教する wear out=すり切れる・だめになる label=ねふだ・ラベル purchase=買い物

本文には自由に書き込んでください。つなぎの語(But / Yet / however)に印をつけ、段落の左に「認める／切り返す／例／主張／提案」とメモすると、大問1がそのまま解けます。

安く買って、高くつく 設問

年 組 番 名前 _____

本文（1枚目）を見ながら答えてください。

大問1 段落の働き それぞれの段落が、この文章の中でどんな働きをしているかを選ぼう。

(1) [2]段落の働きとして、いちばん合うものは？ 思考・判断・表現 答え () 3点

- ア [1]段落の具体例を、くわしく挙げている
- イ 筆者の主張を、はじめて言い切っている
- ウ 反対の立場にも言い分があることを、いったん認めている
- エ 読者にしてほしいことを、提案している

(2) 筆者が「でも、そうではない」と切り返しはじめるのは、どの段落の最初の文？ 思考・判断・表現 答え 3点
()

- ア [2]段落
- イ [3]段落
- ウ [4]段落
- エ [5]段落

大問2 内容の読み取り 本文の内容に合うものを選ぼう。

(1) 安いほうを買うのが正しい場合として、本文が挙げているのは？ 知識・技能 答え () 3点

- ア 一つの季節だけ使えばよいとき
- イ 高いほうが売り切れているとき
- ウ 友だちも同じものを買うとき
- エ 見た目がまったく同じであるとき

(2) ねふだの値段が答えているのは、どんな問いだと本文は述べているか。 知識・技能 答え () 3点

- ア どれくらい長くもつのかという問い
- イ 今日いくら払うのかという問い
- ウ 何年使うつもりかという問い
- エ どちらが人気があるのかという問い

(3) 高いものを買うほうがよいのは、どんなときだと本文は述べているか。 思考・判断・表現 答え () 3点

- ア 買えるお金があるときならいつでも
- イ 見た目が気に入ったとき
- ウ 本当に長もちし、しかも使い続けると分かるとき
- エ 同じものが他の店にないとき

大問3 書いて答える 本文をもとに、日本語で書こう。

(1) 筆者が買う前にすすめている計算を、20字以内で書きなさい。 思考・判断・表現 5点

解答

選択問題

大問1 段落の働き		
(1)	ウ	Buying the cheaper pair is often the right decision ... で、安いほうを買う側の言い分をいったん認めている。エは[6]段落。
(2)	イ	The trouble starts when ... が転換点。譲歩[2]→転換[3]→説明[4]→条件付きの主張[5]→提案[6]。
大問2 内容の読み取り		
(1)	ア	[2]段落 you also need the shoes for one season only。
(2)	イ	[4]段落 It told you what you pay today。
(3)	ウ	[5]段落の二つの条件。アは同じ段落の This is not an argument for always buying the expensive thing. と食いちがう。

記述の採点

模範解答と部分点の刻み

刻みは答案を見る前に配点を決めておくための表です。採点しながら基準を作ると、最初の10枚と最後の10枚で線が動きます。

大問3(1) 筆者が買う前にすすめている計算を、20字以内で書きなさい。

5点

値段を使う年数で割る。	
配点	その点を与える条件
3点	「値段を年数で割る」にあたる内容がある
2点	「使うつもりの年数」であることに触れている

「高いほうを買う」と書いた答案は0点。[5]で明確に否定されている—大問2(3)と同じ力をここで測っている。

安く買って、高くつく（基礎） | 出題のねらい

出題のねらい 定期テストに移すときの観点マップ

「安いほうが得か」という身近な問いから、条件付きの主張を読み取らせる英文です。筆者は「高いものを買え」とは言っていません—買い替えの回数と使う年数が読めるときに限る、という条件が[5]に入っています。ここを落とすと要約が「高いものを買うべきだ」に化けます。条件を落とさずに要約する練習は、そのまま自由英作の減点対策になります。読んだあとは、自分の持ち物で「一年あたりいくらか」を計算させると、数字が英語から生活に降りてきます。

型	観点	テストでの使い方
段落の働き	思考・判断・表現	論の展開の読解。条件付きの主張を無条件と読まないか
転換点の特定	思考・判断・表現	譲歩から主張への折り返しを1文で指させるか
内容一致／下線部和訳	知識・技能	基礎・標準は選択、発展は和訳。数と条件節の精度
内容説明（記述）	思考・判断・表現	条件を落とさずに主張を書けるか
要約（20語）	思考・判断・表現	発展版のみ。譲歩・主張・結びの3要素で採点する

大問1は3版とも同じ問いです（段落が論の中でどう働いているか）。内容が取れているかではなく、論の運びが見えているかを測ります。

3つの版の使い分け

同じ英文の骨格（段落構成・論の運び）を保ったまま、語数・語彙・答え方を上げてあります（基礎300語=選んで答える＋日本語20字／標準380語=選択肢が英語＋日本語40字×2／発展450語=下線部和訳2・内容説明80字・英語20語要約の全問記述）。①クラスの帯に合わせて選ぶ ②同じクラス内で配り分ける ③基礎→標準→発展と学期をまたいで同じ英文に戻る—の3通りが使えます。③は「同じ話がどこまで読めるようになったか」を生徒自身が測れるので、学期末・学年末の振り返りに向きます。なお大問2以降は正解の記号を版ごとにずらしてあります（配り分けのときの写し合い対策）。大問1だけは3版とも同じ問い・同じ記号です—ここは測る力をそろえるための共通の骨格なので、あえて変えていません。